

千葉市における自治会館の所有の有無による自治会活動の違いについて

日大生産工(院) ○大内 裕貴 日大生産工(院) 望月 雄馬
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1.1. 研究の背景と目的

近年、千葉市では自治会が大幅に増加しており、1985年の262自治会^{*1}に対し2017年には1097自治会^{*2}となっている。自治会数に対し自治会館数は1985年の262館^{*1}から2017年の578館^{*2}であることから、自治会数と自治会館数の差が大きく生じていることがわかる。自治会活動の受け皿となっていた自治会館が必ずしも利用されなくなっており、自治会館を所有していない自治会の活動とその場所について詳しく調査されていない。

本稿では、自治会館を所有している自治会と自治会館を所有していない自治会とで活動に差があるのかをアンケート調査により把握し考察することを目的とする。

1.2. 研究の対象

千葉市6区の中で最も自治会館所有率の低い緑区を対象とし、その緑区の中でさらに最も自治会館所有率の低いおゆみ野地区について報告する。おゆみ野地区は、緑区内の4つの地区の中で最も自治会が多いものの、自治会館を所有していない自治会も多く、65自治会のうち自治会館を所有している自治会は12自治会となっている。今回、回答の得られた34自治会とする。

1.3. 研究の方法

千葉市緑区のおゆみ野地区全65自治会の自治会長へアンケート調査を行う。調査項目は「自治会を申請する際の活動拠点」、「自治会の活動内容と場所、その頻度について」、「自治会入会世帯数」、「マンション自治会の地域活動」、「自治会館が必要かどうかの意識調査」、「自治会、自治会館に関する不安や問題点」の6項目である。その中の「自治会を申請する際の活動拠点」、「自治会活動の種類と場所、その頻度」の2項目について分析を行うことで自治会館

の所有の有無による自治会活動の差を把握する。また、先程の2項目に加え「自治会館が必要かどうかの意識調査」、「自治会、自治会館に関する不安や問題点」から考察を行う。

2. 自治会の活動拠点について

「自治会を申請する際の活動拠点」では、「会長宅」、「自治会館(集会所、町内会館を含む)」、「公民館」、「コミュニティセンター」、「記入なし」^{*3}、「不明」、「その他(記述式)」とし、集計した結果を表1に示す。「その他」では福祉施設であるおゆみ野ふれあい館の2件、管理棟1件、小学校図書室の1件が記入されている。この結果から「自治会館所有」、「自治会館なし」、「不明」の3グループに整理し、表2に示す。以降はこのグループで比較を行う。

自治会館を所有していない自治会では、代表者である会長宅を活動拠点として記入することが多く、そのほかには公共施設の「公民館」や「コミュニティセンター」を記入している。

表1 自治会申請時の活動拠点の集計結果

活動拠点	件数
会長宅	7
自治会館(集会所、町内会館を含む)	12
公民館	2
コミュニティセンター	3
記入なし	2
不明	4
その他	4

表2 自治会館の所有の有無の分類

分類(件数)	活動拠点
自治会館所有(12)	自治会館
自治会館なし(18)	会長宅、公民館、コミュニティセンター、記入なし、その他
不明(4)	不明

About Differences in Activity of Resident's Associations by With or Without Possess of Resident's Association Hall in Chiba City

Yuki OUCHI, Yuma MOCHIZUKI, and Naoyuki HIROTA

3. 自治会館の所有の有無による活動の比較

3.1. 自治会の活動内容による比較

アンケート項目の「自治会の活動内容と場所、その頻度について」では、既往研究^{*4}を参考に、自治会活動として「清掃・ゴミ拾い」、「会議」、「お祭り」、「ごみステーション管理」、「防犯活動」、「防災活動」、「餅つき大会」、「運動会・スポーツ大会」、「サークル活動・親睦会」、「子ども会」、「敬老会」、「その他（記述式）」の12項目をチェック項目として用意し、項目ごとにその場所と頻度を記入してもらう形をとっている。今後の図は、その他を除き縦軸に上から順に特定の場所で室内を利用すると想定される活動とし、下がるにつれて広域的で屋外で行われると想定される活動について整理する。これに加え、「自治会館所有」と「自治会館なし」、「不明」それぞれの活動の比を比較したものが図1である。

自治会活動として全ての自治会が行っているのが「会議」であり、次いで多い活動は「清掃・ゴミ拾い」となっている。「自治会館所有」と「自治会館なし」の自治会では、活動自体に特段大きな違いはみられないが、差がみられる活動としては「防災活動」、「サークル活動・親睦会」の2項目が挙げられる。「防災活動」では自治会館を所有している自治会が92%みられたのに対し、自治会館を所有していない自治会は67%となっている。「サークル活動・親睦会」では自治会館を所有している自治会が33%であることに対し、自治会館を所有していない自治会は17%である。「防災活動」で差がみられるのは自治会館が一時的な避難場所となり得るからだと考えられ、「サークル活動・親睦会」についても自治会館内で行い易い活動だと考えられる。この2つの活動については活動場所からみる必要がある。

3.2. 自治会の活動頻度による比較

活動項目ごとの頻度を「自治会館所有」、「自治会館なし」、「不明」で比較したものを図2に示す。活動の頻度については、自治会館の所有の有無に関わらずほぼ一定の頻度のものがほとんどである。「ごみステーション管理」や「掃除・ゴミ拾い」、「防犯活動」については自治会によってまちまちである。「会議」では月1～3回が多く、自治会館を所有していない自治会より自治会館を所有している自治会のほうが22%多く、多少差がみられる。

自治会館を所有している自治会と自治会館を所有していない自治会とで活動の頻度に大きな差というのはなく、頻度に影響するのは活動内容によるものが大きいと考えられる。

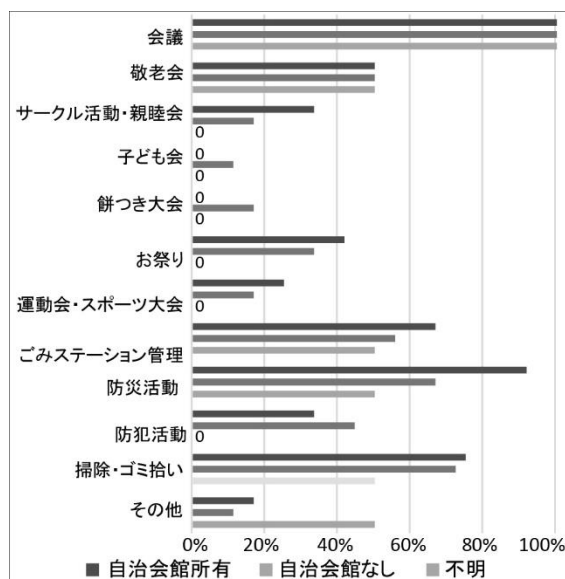


図 1 自治会館の所有の有無による活動内容の比較

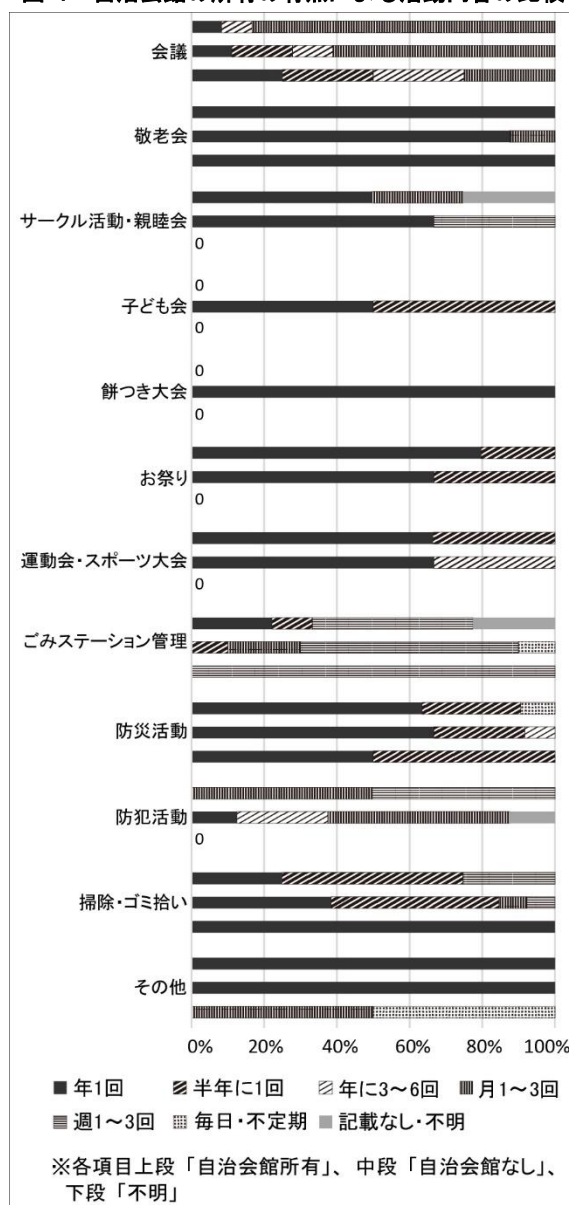


図 2 自治会館の所有の有無による活動の頻度の比較

3.3. 自治会の活動場所による比較

活動場所を「自治会館」、「個人宅」、「マンション内」、「飲食店」、「集会施設」、「学校」、「公園・道路」、「自治会域内」、「その他」、「記載なし・不明」の10項目に整理する。この際の「集会施設」は、公共施設で集会可能である公民館、コミュニティセンター、福祉施設のおゆみ野ふれあい館を集会施設として扱う。場所と自治会活動を整理し、自治会館の所有の有無で比較したものを図3に示す。

まず、自治会館を利用する活動としては「会議」、「サークル活動・親睦会」、「お祭り」、「防災活動」、「掃除・ごみ拾い」、「その他」が挙げられる。「会議」においては、自治会館を所有していない自治会で自治会館を記入している自治会が2件あり、他自治会が所有している自治会館を借りて利用していると考えられる。また、自治会館を所有している自治会でも集会施設を利用している場合がある。「お祭

り」の活動においても自治会館を活動場所として記入している自治会が1件みられ、こちらも他自治会の有する自治会館を利用していると考えられる。

自治会館を所有している自治会が他施設を利用する活動は「お祭り」や「運動会・スポーツ大会」といった広い面積を使用する場合が多い活動で挙げられ、この場合学校の利用が多い。「防災活動」は、自治会館だけでなく「学校」や「公園・道路」も利用され、避難場所としてや避難経路から活動場所に挙げられていると考えられる。「敬老会」では自治会館を所有している自治会と自治会館を所有していない自治会でも飲食店を利用していることが多い。

自治会館の所有の有無によって活動場所に違いがあらわれる活動は会議である。自治会館を所有している自治会は自治会館が主であり、自治会館を所有していない自治会は集会施設が主であるが様々な場所で会議を行っている。

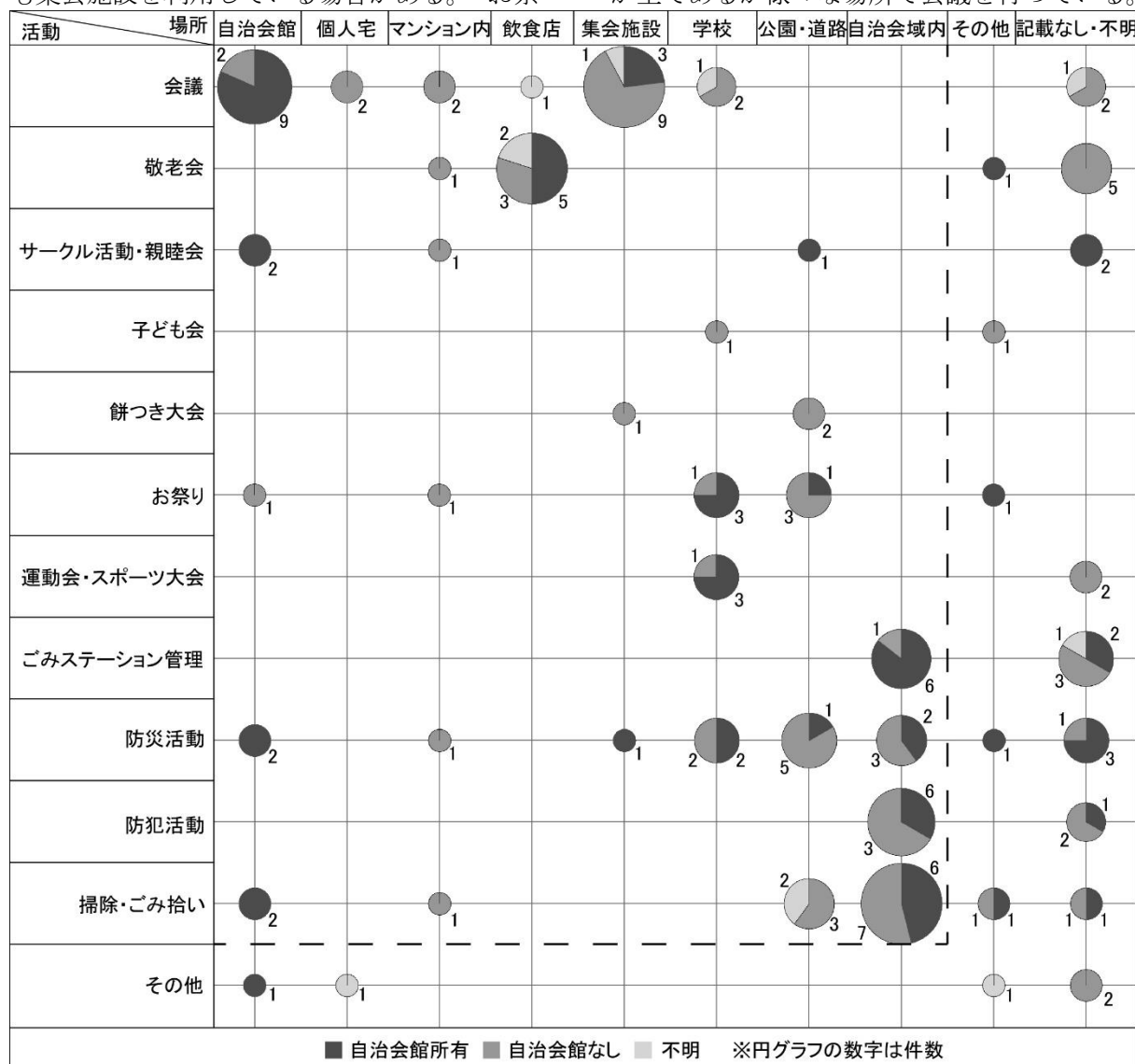


図3 自治会館の所有の有無による活動内容の比較

4. 自治会・自治会館に対する意識

4.1. 自治会館が必要かどうかの意識

アンケート項目の「自治会館が必要かどうかの意識調査」では、自治会館が必要か不要かをチェック項目として用意し、総数と自治会館所有の有無で比較したのが図4である。総数からみると、必要が44%、不要が41%と僅かに自治会館が必要という意見が多い。しかし、自治会館を所有している自治会では必要という意見が多いのに対し、自治会館を所有していない自治会では不要という意見のほうが上回っており、考え方に違いがみられる。

必要・不要それぞれ自由記述の理由の欄では、自治会館を所有している自治会での必要という意見は「会議や防災訓練の活動の場として必要」、「高齢者の憩いの場やコミュニティ形成の場として役立つ」、「防災備品や資料、機材の管理ができる」といった意見があり、不要の意見では「維持、管理が大変、できない」といった意見があがっている。自治会館を所有していない自治会での必要という意見は「公共施設の使用率がよく使いたい時に使えない」、「避難時、一時的に集まる場所がない」といった意見があり、不要の意見では「公共施設の利用で足りている」、「設置場所が無い」といった意見があり各自治会で様々な状況がある。

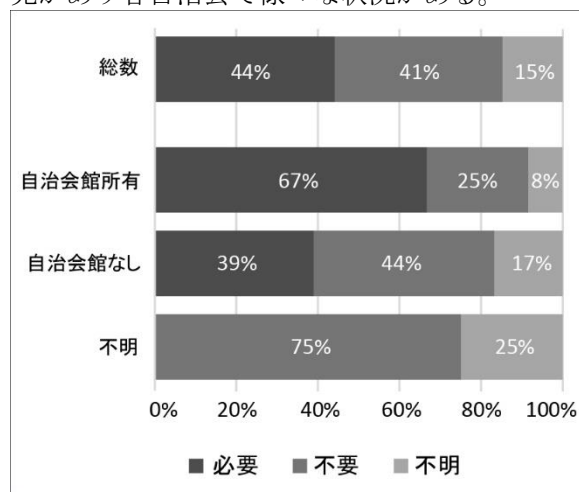


図4 自治会館の必要・不必要に対する意識調査

4.2. 自治会・自治会館に対する不安や問題点

「自治会、自治会館に関する不安や問題点」の自由記述では、自治会の不安や問題点として「高齢化による役員のなり手の減少」、「活動場所の重複」、「役員の負担が大きい」、「自治会域での連携意識の希薄化による大規模自然災害等に対する準備が課題」といった意見のほかに「自治会の成立が宅地開発と連動する形で宅地業者主導の為、必要最低限の活動しかできていない」という意見もある。自治会館の不

安や問題点として「自治会館の老朽化による建て替えをどうするかが課題」、「集会所の建設する土地を保有しているが資金が無い」という意見があり、自治会館の建設を検討している自治会もあることがわかる。

5. 自治会館所有の有無による活動差の考察

自治会館を所有している自治会と自治会館を所有していない自治会とで活動に差がみられるのは「防災活動」、「サークル活動・親睦会」である。活動の頻度については、自治会館の所有による差はほとんどみられない。活動場所においては「会議」で自治会館を所有している自治会では自治会館の利用が多く、自治会を所有していない自治会では様々な場所で行っていることから差がみられる。

自治会館の所有の有無による自治会活動の違いは大きなものではなく、公共施設や公園といった場所で補えると考えられるが、高齢者の憩いの場やコミュニティ形成の場所としての価値や、防災倉庫や一時的な避難場所として災害時に役に立つ面もある。

6. 今後の課題

自治会館を所有していない自治会と集会可能な公共施設との位置の関係性、また自治会館の規模や世帯数との活動の関係性について調査を行う必要がある。

【注釈】

- ※1 若木滋, 浅野平八, 由良富夫, 「町内自治会集会所の整備過程に関する研究」(1985) p.65-70
- ※2 千葉市町内自治会連絡協議会, 集会所一覧(町内自治会等名, 集会所名, 建築面積) (2017)
- ※3 アンケートに記入をしていないのではなく、自治会の申請時に記入なし。
- ※4 広田直行, 浅野平八, 川岸梅和, 栗山瑛子, 「千葉市における自治会館の利用実態とコミュニティ形成の関係性」(2012) p.18-22

【参考文献】

- 1) 若木滋, 浅野平八, 由良富夫, 「町内自治会集会所の整備過程に関する研究」(1985)p.65-70
- 2) 藤繁和, 「都市部における地域社会形成に寄与する集会施設の機能」(2001)p.1-11
- 3) 広田直行, 浅野平八, 川岸梅和, 栗山瑛子, 「千葉市における自治会館の利用実態とコミュニティ形成の関係性」(2012) p.2-9, 18-22
- 4) 広田直行, 山岸輝樹, 古田博一, 「千葉市コミュニティ施設の利用者評価に見る室利用の課題と要因」(2016) p.19-53
- 5) 千葉市町内自治会連絡協議会, 集会所一覧(町内自治会等名, 集会所名, 建築面積) (2017)